

メルマガ 「いいテク・ニュース」 季語に遊ぶ 2023年7月26日 (Vol.178)

『ベリー公のいとも豪華なる時祷書』月暦図と俳句ーその2、7月・8月・9月

『ベリー公のいとも豪華なる時祷書』月暦図と俳句

ーその2、7月・8月・9月



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Les_Tr%C3%AAs_Riches_Heures_du_duc_de_Berry_septembre.jpg

9月『ぶどうの収穫』

『ベリー公のいとも豪華なる時祷書』とはフランス王の弟で、中世を代表する芸術パトロン、ビブリオフィル（書籍愛好家）として知られたベリー公ジャン 1 世（1340-1416）がフランドル（現在のベルギー、フランス北部にまたがる地域）出身の画家ランブール兄弟（ポール、エルマン、ヨハン）に発注した世界で最も美しいとされる彩飾写本です。

1416年に奇（く）しくも、発注者と制作者 3 兄弟がともに死亡し、15 世紀末に別の画家が完成させました。

1 ページのサイズが 29 × 21 cm で、206 葉の最高級の羊皮紙（ようひし）と呼ばれる紙で構成され、見開きの左ページが「月暦図」で、右ページが暦です。

600 年前の 12 か月を月ごとの風景と人々の暮らしの様子が色鮮やかに描かれています。

今回は 2 回目で、7 月「小麦の刈り入れ、羊の毛の刈り込み」、8 月「鷹狩りに赴（おもむ）く貴族たち」、9 月「葡萄（ぶどう）の収穫」の「月暦図」と俳句です。

お楽しみください。

※時祷書とは基督教の裕福な貴族や市民が日々の宗教的なおつとめをこなすための祈りのハンドブックのようなもの。

1. 7月「小麦の刈り入れ、羊の毛の刈り込み」



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Les_Tr%C3%AAs_Riches_Heures_du_duc_de_Berry_juillet.jpg

7月「小麦の刈り入れ、羊の毛の刈り込み」

描かれているのは城の近くの小麦の刈り入れと羊の毛刈りです。
麦も羊も食と衣にかかわり、当時の農民にとってこの時期の大切な仕事でした。
小麦は聖書の冒頭の本である『創生記』に登場し、その他の古書にも頻繁に「麦」や「小麦」がとりあげられ、重要な作物であったことがわかります。
中世ヨーロッパでは小麦だけで作られたパンは贅沢品でした。
麦は晩秋から初冬に蒔（ま）かれ、冬を越し、翌年の初夏に刈り取られます。

ここでは初夏の季語である「麦」を詠んだ句をあげておきます。

いくさよあるな麦生（むぎふ）に金貨天降（あまふ） るとも

中村草田男



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Van_Gogh_-_Weizengarben_auf_einem_Feld.jpeg

『畑の小麦束』 ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ（1853-1890）1885年

キリスト教では救世主に導かれる信徒たちを、羊飼いに導かれる羊にたとえられるなど、古くからひとびとの近くにいました。

古代より家畜化が進められ、羊乳として脂肪とタンパク質に富み、チーズやヨーグルトに加工されます。

もうひとつの利用は羊毛を原料とするウールです。

動物繊維のなかで最も多く使用され、理想的なウールだけを産するメリノ種は毛織物産業を支えてきました。

スペインの黄金時代には国費を投じてメリノ種を飼育し、数頭が海外の王家への外交手段として贈呈されるほどでした。

ここでは晩春の季語「羊の毛刈る」を詠んだ句をあげておきます。

毛を刈る間羊に言葉かけとほす

橋本多佳子



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Shearing_Sheep,_Jean-Fran%20ois_Millet.jpg

『羊の毛刈り』ジャン＝フランソワ・ミレー（1814-1875）1852年か1853年

2. 8月「鷹狩りに赴（おもむ）く貴族たち」



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Les_Tr%C3%AAs_Riches_Heures_du_duc_de_Berry_aout.jpg

8月「鷹狩りに赴（おもむ）く貴族たち」

ベリー公のエタンブ城を背景に、晴れやかな夏の日、鷹狩りに向かう貴族の男女を描いています。鷹狩りは中世貴族の権威の象徴であり、時間、金銭、空間などを必要とする娯楽ですので、楽しむのは貴族階級や富裕層に限定されていました。

しかし、この絵に描かれている当時の彼ら貴族たちの目的は狩猟だけではなく、恋人たちが愛を確かめる機会でもありました。

馬に乗る5人は人間の五感を象徴し、また鷹は男性を子犬は女性を表すとする中世象徴主義の暗示に満ちた絵です。

鷹は黄金より高額で取引されることもあり、「豪胆公」と呼ばれたフィリップ2世（1342-1404）の息子ジャン1世がオスマン帝国に囚（とら）われた時に、オスマン帝国の第4代皇帝バヤズイト1世（1360-1403）は身代金として20万枚の金貨の申し出を断り、鷹の1種であるシロハヤブサを12羽を要求しているほどです。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Falconry_Book_of_Frederick_II_1240s_detail_falconers.jpg

『De arte venandi cum avibus』（1240年代に神聖ローマ皇帝フリードリヒ2世によって書かれた鳥類学と鷹狩りに関するラテン語の論文）に描かれた2人の鷹匠

日本では、徳川家康が鷹狩りを好んだのは有名で、単なる鷹好きの域を越えて、身体を鍛える一法として、快食・快眠のための養生法としていました。伝統は受け継がれ、宮内庁には現在も鷹匠（たかじょう）とよばれる職名があり、数名の鷹匠がいます。

ここでは、冬の季語になりますが、「鷹狩り」と「鷹匠」を詠んだ句をあげました。

鷹がりの上坐下坐や芝つ原

小林一茶

鷹匠の拳に鷹の甘え鳴き

河内 環



<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Shimomeguro.jpg>

『富岳三十八景 下目黒』葛飾北斎（1760-1849）1830年頃

目黒一带は、江戸時代人家も少なく鷹狩りの場として有名で、将軍家の鷹狩りの場で、鷹番という地名も残っています。

二人の鷹匠が描かれていることからそのことがうかがえます。

絵は丘の間から見える富士山の位置から、目黒駅から目黒雅叙園に向かう途中にある行人坂あたりからの景色と思われます。

3. 9月「葡萄（ぶどう）の収穫」



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Les_Tr%C3%AAs_Riches_Heures_du_duc_de_Berry_septembre.jpg

9月「葡萄（ぶどう）の収穫」

ソミュール城*を背景に葡萄を収穫する様子が描かれています。
葡萄は古くから世界各地で栽培され、紀元前 2500 年頃のエジプトの壁画などに、葡萄の栽培やワインの醸造の様子が描かれています。

また、キリスト教にあつては、葡萄はたいへん重要な果物です。
新約聖書中においてキリストは「わたしはまことのぶどうの木」と語って、自分自身を豊かな実りを約束する葡萄の木にたとえていますし、旧約聖書中で、主がモーセに示された約束の地カナンは恵まれた地であり、豊かな葡萄も実りました。
モーセの命で摘みとられ、棹（さお）につるされた葡萄の房はキリストの受難を象徴します。

さらにカトリック教会の「ミサ（聖体拝領式）」においては、信者たちが口にする聖餐のワインとパンはキリストの血と肉の象徴です。

絵では葡萄は棚ではなく、1本1本から収穫しているようです。
ヨーロッパにおいては、葡萄畑の小道にキリストの十字架像が立っていたりします。
農夫たちは葡萄の手入れをしたり、摘みに行き来する際、十字架像をちょっとおがんで通ります。
日本のお地藏さんのような存在かな。

*ソミュール城：ノルマン人の略奪に対する強固な要塞として建設され、ロアール渓谷流域の古城の一つとして 2000 年に世界遺産に登録された美しい城。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Giuseppe_Arcimboldo_-_Autumn,_1573.jpg

ジュゼッペ・アルチンボルド（1527-1593）『秋』1573年

ここでは仲秋の季語「葡萄」を詠んだ句を選びました。

ここに立つ受難キリスト葡萄摘

山口青邨

黒葡萄こころ痺（しび）るるほど食べて

鍵和田柚子



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Red_vineyards.jpg

『赤い葡萄畑』 ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ (1853-1890) 1888年

私も「葡萄の収穫」から連想して詠んでみました。

かほりよきワインに憩ふ夏ゆふべ

白井芳雄

絵の『青いテーブル』の上にフルーツとともに描かれているのは、「ゲヴェルツトラミネール」と呼ばれる白ワインです。

ワインの魅力の一つとして豊かな香りに癒されることがあります。

そんなアロマティック品種の代表がゲヴェルツトラミネールです。

果皮がうっすらピンク色をした白ワイン用のブドウ品種で、辛口から甘口まで幅広い味わいのワインを生み出します。

マリネや生春巻きなどと相性がよく、スパイシーな風味もあるので、エスニック料理とも合います。

また、ブドウを遅摘みにしたり、貴腐化したブドウを手摘みして、甘口の超高級デザートワインが作られることもあります。

画家は「フランスの最も美しい村」の1つ、ジェルブロワという薔薇の街を作り上げた人物です。

絵は淡い色彩で、少しアンニュイな雰囲気を醸（かも）し出し、フルーツとワインが描かれています。

うっとりとしとろけてしまいそうな作品です。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Le_Sidaner,_Le_table_bleue,_Gerberoy.jpg

『青いテーブル』 アンリ・ル・シダネル (1862-1939) (1923)

今回は『ベリー公のいとも豪華なる時祷書』月暦図と俳句ーその2として7月・8月・9月をお届けしました。

全体を通じての参考文献、出典：エルンスト・Hゴンブリッチ著

(翻訳 天野衛、大西広、奥野臯、桐山宣雄、長谷川摂子、
長谷川宏、林道郎、宮腰直人)
『美術の物語』(河出書房新社)(2022年)
ISBN978-4-309-25628-3

高橋明也責任編集

『ART GALLERY テーマで見る世界の名画
7 風俗画 日常へのまなざし』(集英社)(2018年)
ISBN978-4-08-157077-5 C0371

宮下志朗著

『カラー版 書物史への扉』(岩波書店)(2016年)
ISBN978-4-00-061134-3

千足伸行著

『隠れ名画の散歩道』(論創社)(2013年)
ISBN978-4-8460-1239-7

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修

『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』(講談社)(2008年)
ISBN978-4-06-128972-7

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 春』(KADOKAWA)(2022年)
ISBN978-4-04-400504-7 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 夏』(KADOKAWA)(2022年)
ISBN978-4-04-400499-6 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 秋』(KADOKAWA)(2022年)
ISBN978-4-04-400500-9 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 冬』(KADOKAWA)(2022年)
ISBN978-4-04-400502-3 C0392

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 melmaga@tic-co.com まで、
どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター 〒530-0038 大阪市北区紅梅町2-18 南森町共同ビル 3F

TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : info@tic-co.com